

「見学実習について」

2年 梅本哲也

今回の見学実習では様々なところに行ってきたが、2日目の最後に行った天理参考館について述べようと思う。

まずこの天理参考館の異国風の外観に驚いた。この辺り一帯が日本ではないような気分さえなった。内部もとてもきれいで、近代的な感じがした。天理といえば天理教といった先入観をもっていったため、この参考館も宗教色が強いものだと思手に想像していたが、天理教は全く関係なく一般の博物館等と同じだった。この天理参考館は、1、2階に「世界の生活文化」、3階に「世界の考古美術」という構成になっている。また、企画展としてニューギニア、アジア、アフリカ各地の太鼓が展示されていた。「世界の生活文化」では、アイヌ、朝鮮半島、中国、台湾、パリ、ボルネオ、インド、メキシコ、グアテマラ、パプアニューギニア、アメリカ、日本など世界各国の各テーマに沿って集められた資料が展示されていた。例えば、朝鮮半島の資料のテーマは「伝統社会の道しるべ」で、朝鮮半島の農村社会の風物詩であるチャンスンや祭りの仮面と楽器・服飾用品・裁縫道具・食器類・神像類などが展示されており、朝鮮の伝統的社会に生きる人々の精神世界や理想とする文化秩序を見ることができるようになっていた。また、アイヌの資料のテーマは「北の大地が育む手技」で、儀礼用の着物や彫刻を施した道具類、家宝・宝器として大切に扱われてきた儀礼用の漆器や宝刀が展示されており、アイヌの女性・男性それぞれの伝統的な手仕事の技やかつての盛んな交易の歴史の一端にふれることができるようになっていた。このようにさまざまなテーマに分かれていることにより、飽きずに楽しく見学することができた。「世界の考古美術」では、日本、朝鮮半島、

中国、オリエントの様々な考古美術が展示されていた。また、布留遺跡という天理参考館の近くにある旧石器から現代まで続く複合遺跡の遺物も別に展示されていた。そこでは布留遺跡およびその周辺で行われた発掘調査で見つかった主な遺物と布留遺跡で見つかった埴輪などから、古墳時代の祭場の様子が復元されていた。このようにこの天理参考館は、あらゆる国の多種多様な資料が展示されており、その幅広さに驚かされた。また、身体障害者の方や、乳幼児を連れている方のために車椅子、ベビーカーの無料貸し出しや、授乳室の設置、そして外国人の方や視覚障害者の方のための日・英・中・葡・韓5カ国語の音声解説機器の無料貸し出しなど来館者への配慮も十分に行われていた。この天理参考館では、全体的に興味を引くものが多く、また初日に行った橿原考古研付属博物館と違い、制限時間がなかったため、ゆっくりと楽しく見学することができた。

今回の見学実習では、移動はほとんど歩きだったため非常に疲れたが、個人的にも奈良に行った事がなく、一度訪れてみたかったため、いい機会となった。また、多くの遺跡や遺物などを見ることができて勉強にもなり非常に充実した実習だったと思う。是非また奈良に行って、今回見学したもの以外の遺跡や遺物も見てみたいと思った。